

本校生徒の「生活意識調査」に基づくアンケート分析

—中高6ヵ年における生徒意識の変遷とその問題点—

筑波大学附属駒場中・高等学校 生徒部

遠藤 正之・小澤富士男・加藤勇之助
合田 浩二・末岡 敏明・根本 節子
丸浜 昭

本校生徒の「生活意識調査」に基づくアンケート分析

—中高6ヵ年における生徒意識の変遷とその問題点—

筑波大学附属駒場中・高等学校 生徒部

遠藤 正之・小澤富士男・加藤勇之助

合田 浩二・末岡 敏明・根本 節子

丸浜 昭

1. はじめに

経済史的に眺めれば、戦後復興から始まった近代化、産業化、都市化、高度成長、流通化という流れの中で、経済発展や人権意識の定着・社会の民主化などに、本校のような国立附属などの公教育機関は一定の役割を果たしてきました。その当時は教育の理念として、協調性・公的な役割・弱者に対する優しさ・平和に対する希求・体力の増進などが、重要な柱として取り上げられてきました。もっともその間、絶えず地域社会は変容し続けたし、家族関係も変化してきたのですから、当然のことながら、個人の考え方やものの見方も変わり続けてはいました。

それにしても1980年代以降、変化の速度ははやまっています。国際経済の発展や情報社会の進展は、情報化・国際化などの用語を生み出し、かつて使われていた近代化・産業化・都市化・高度成長・流通化などではくくることのできない、別の社会の現出をもたらしました。急速なライフ・スタイルの変化やそれにとまなう個人意識の変容、地域社会に変わるネット社会の進行、核家族化の新たな変質と少子化などにより、多様性・自己本位・匿名化を基軸に人間の関係構造が出来上がりつつあります。残念ながら、現在起きている事柄は、自立や連帯を軸にした従来の個人意識や社会意識では説明することが困難になりつつあります。

学校社会にあっても、この間、偏差値教育・校内暴力・いじめ・不登校・体罰・荒れる学校・むかつく・きれる・学級崩壊・超競争受験などの言葉で象徴されるような、大きな変化がやってきました。政府の財政状況の問題もあり、しだいにこの先、国立附属を始め公教育の役割は後退していく可能性があります。その分、教育費用と教育内容の選択は各家庭に一層委ねられていくことになると考えられます。つまり公共経済の一環として行われていた教育が市場経済に一層委ねられていくだろうと考えられます。戦後社会を支えてきた公教育は、今、実は大きな転換点にあります。同じ軸で回転する現代社会の輪の中で生徒意識も着実に変化してきています。本校生徒の生活調査を通して、生徒の理解を深め、本校におけるより良い指導につながればと考え、アンケート調査を実施することにしました。このアンケートを通して個々の生徒の意識が或る程度まで浮きぼりにすることが出来ればと考えています。

2. アンケート内容とその分析

(1) アンケート内容とその結果

アンケートは全部で50問です。本校の中1から高3までの生徒人数の内訳は以下の通りです。

中1：123人 中2：122人 中3：120人 高1：164人 高2：164人 高3：162人

集計結果は、欠席やマークシートのミス記入もあり以下の人数となりました。

中1：115人 中2：116人 中3：115人 高1：158人 高2：159人 高3：146人

まず、日本をどんな国だと思っているのかについて聞きます。

1 住み心地がよい

①とても思う ②かなり思う ③あまり思わない ④まったく思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	28	54	18	0	
中2	25	55	17	3	
中3	24	50	21	5	
高1	32	47	16	5	
高2	35	46	16	3	
高3	29	55	13	3	

2 親しい人が多い

①とても思う ②かなり思う ③あまり思わない ④まったく思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	4	35	61	0	
中2	4	28	56	12	
中3	6	23	57	14	
高1	4	28	57	11	
高2	7	25	59	9	
高3	7	30	51	12	

3 学歴がものをいう社会である

①とても思う ②かなり思う ③あまり思わない ④まったく思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	38	47	14	1	
中2	32	50	15	3	
中3	39	45	15	1	
高1	40	40	17	3	
高2	41	49	8	2	
高3	36	50	13	1	

4 将来しだいに競争がなくなっていく社会である

- ①とても思う ②かなり思う ③あまり思わない ④まったく思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	12	13	57	18	
中2	4	11	53	32	
中3	4	6	36	54	
高1	5	11	45	39	
高2	2	11	58	29	
高3	6	13	49	32	

あなたのふだんの生活との関わりの中でたずねます

5 目覚めはいい方ですか

- ①すっきりさわやかに起きられる
 ②少し眠いが、起きてしまえば、大丈夫
 ③なんとなくだるくて、しばらくボーっとしている
 ④起きようとするが、なかなか起きられない

	①	②	③	④	(%)
中1	2	58	25	15	
中2	7	51	29	13	
中3	6	44	28	22	
高1	4	54	24	18	
高2	4	50	24	22	
高3	5	50	31	14	

6 朝ごはんを食べて登校しますか

- ①毎日必ず食べる
 ②1週間に1, 2度食べないことがある
 ③食べたり, 食べなかったりする (とくにきまっていない)
 ④ほとんど食べない

	①	②	③	④	(%)
中1	92	6	2	0	
中2	85	5	6	4	
中3	86	8	4	2	
高1	86	7	5	2	
高2	84	5	8	3	
高3	88	5	4	3	

7 朝学校に行きたくないと思うことがありますか

- ①全然思わない
- ②年に何度かそう思うときがある
- ③週に何度かそう思う
- ④絶えずそう思っている

	①	②	③	④	(%)
中1	65	25	10	0	
中2	45	40	13	2	
中3	33	51	15	1	
高1	32	45	19	4	
高2	30	43	17	10	
高3	28	44	24	4	

8 昼食の早弁をあなたはしますか

- ①全然しない
- ②週に1, 2度している
- ③週に3, 4度している
- ④絶えずしている

	①	②	③	④	(%)
中1	41	28	15	16	
中2	38	19	13	30	
中3	27	20	17	36	
高1	40	13	12	35	
高2	18	16	22	44	
高3	38	19	17	26	

9 あなたの平日の睡眠時間はどれくらいですか

- ①4時間未満
- ②4時間～5時間
- ③5時間～6時間
- ④6時間～7時間
- ⑤7時間～8時間
- ⑥8時間以上

	①	②	③	④	⑤	⑥	(%)
中1	1	0	3	20	58	18	
中2	1	1	11	28	46	13	
中3	1	7	17	46	25	4	
高1	2	7	22	43	22	4	
高2	2	9	24	43	21	1	
高3	3	17	44	25	10	1	

10 次のうち自分専用を持っているものはどれですか

- ①ポケベル ②PHS ③携帯電話 ④コンピュータ

	①	②	③	④	(%)
中1	0	3	2	15	
中2	2	2	3	25	
中3	0	0	2	29	
高1	1	5	3	31	
高2	1	10	5	19	
高3	0	14	5	29	

11 あなたはアルバイトをしていますか

- ①まったくしていない
 ②週に1, 2回
 ③週に3, 4回
 ④週に5回以上

	①	②	③	④	(%)
中1	100	0	0	0	
中2	98	1	1	0	
中3	99	0	0	1	
高1	95	3	1	1	
高2	93	5	2	0	
高3	99	0	1	0	

12 あなたは塾や予備校に行っていますか

- ①全然行っていない
 ②週に1日行っている
 ③週に2日行っている
 ④週に3日行っている
 ⑤週に4日以上行っている

	①	②	③	④	⑤	(%)
中1	53	21	20	5	1	
中2	39	18	36	4	3	
中3	34	24	34	7	1	
高1	40	22	28	7	3	
高2	13	14	28	26	19	
高3	10	2	12	33	43	

13 あなたは学校の勉強は自分にとって役立つと考えていますか

- ①すべての教科・科目が役立つ
- ②役立つ教科・科目とそうでないものがあるため、役立たない時は無理をして受けている
- ③役立つ教科・科目とそうでないものがあるため、役立たない時は他のことをしたり眠ったりして聴いていない
- ④学校の勉強は役立たないから無視している

	①	②	③	④	(%)
中1	69	28	3	0	
中2	36	47	17	0	
中3	16	57	26	1	
高1	25	61	13	1	
高2	23	49	27	1	
高3	31	48	20	1	

14 あなたが勉強しなければならない一番の理由はなんですか

- ①社会に役立つため
- ②将来の社会的地位や所得などで自分の利益になるため
- ③勉強がおもしろいため
- ④絶えず勉強をしなければならないという思いにかられるため
- ⑤勉強をしなければならない理由がわからない
- ⑥その他

	①	②	③	④	⑤	⑥	(%)
中1	37	19	21	3	9	11	
中2	20	31	16	4	15	14	
中3	17	44	14	4	12	9	
高1	19	36	11	7	10	17	
高2	17	39	17	8	10	9	
高3	18	40	22	6	7	7	

15 あなたは部活動にどのように参加していますか

- ①運動部に入り、熱心に活動している
- ②運動部に入っているが、あまり熱心ではない
- ③文化部に入り、熱心に活動している
- ④文化部に入っているが、あまり熱心ではない
- ⑤以前は参加していたが、現在は参加していない
- ⑥参加したことがない

	①	②	③	④	⑤	⑥	(%)
中1	64	4	18	4	0	10	
中2	64	12	11	6	7	0	
中3	54	13	15	7	10	1	
高1	42	19	15	4	19	1	
高2	39	14	16	6	20	5	
高3	27	13	12	5	38	5	

あなたは、次のようなことができますか

16 友達と意見が違うときに、自分の意見を主張する

①できる ②たぶんできる ③たぶんできない ④まったくできない

	①	②	③	④	(%)
中1	47	45	8	0	
中2	53	34	13	0	
中3	52	37	11	0	
高1	47	36	14	3	
高2	40	40	17	3	
高3	39	47	13	1	

17 友達がいじめられているとき、助ける

①できる ②たぶんできる ③たぶんできない ④まったくできない

	①	②	③	④	(%)
中1	9	50	35	6	
中2	16	40	38	6	
中3	11	42	40	7	
高1	13	41	39	7	
高2	13	35	46	6	
高3	16	39	38	7	

18 クラスの責任ある仕事を進んで引き受ける

①できる ②たぶんできる ③たぶんできない ④まったくできない

	①	②	③	④	(%)
中1	17	39	39	5	
中2	10	29	48	13	
中3	18	32	39	11	
高1	10	24	50	16	
高2	10	34	41	15	
高3	14	26	42	18	

あなたは次のようなとき、どのくらいうれしいと感じますか

19 定期試験でいい成績をとったとき

①とてもうれしい ②わりとうれしい ③あまりうれしくない ④うれしくない

	①	②	③	④	(%)
中1	65	34	1	0	
中2	45	49	3	3	
中3	43	50	4	3	
高1	37	54	6	3	
高2	40	49	6	5	
高3	41	49	7	3	

20 友達が特別な賞をとったとき

①とてもうれしい ②わりとうれしい ③あまりうれしくない ④うれしくない

	①	②	③	④	(%)
中1	13	65	15	7	
中2	13	51	21	15	
中3	4	48	28	20	
高1	8	57	22	13	
高2	13	61	18	8	
高3	10	66	16	8	

21 クラスが合唱祭などで優勝したとき

①とてもうれしい ②わりとうれしい ③あまりうれしくない ④うれしくない

	①	②	③	④	(%)
中1	65	29	5	1	
中2	59	34	6	1	
中3	48	32	16	4	
高1	39	46	8	7	
高2	49	37	7	7	
高3	52	38	5	5	

次のようなことはあなたにとって、どの程度大切なものですか

22 自分

①とても大切 ②わりと大切 ③あまり大切でない ④ぜんぜん大切でない

	①	②	③	④	(%)
中1	80	17	2	1	
中2	75	19	3	3	
中3	70	20	6	4	
高1	69	20	9	2	
高2	69	24	5	2	
高3	70	17	12	1	

23 友達

①とても大切 ②わりと大切 ③あまり大切でない ④ぜんぜん大切でない

	①	②	③	④	(%)
中1	78	22	0	0	
中2	72	24	3	1	
中3	53	38	7	2	
高1	57	37	4	2	
高2	60	37	3	0	
高3	61	36	3	0	

24 クラス

①とても大切 ②わりと大切 ③あまり大切でない ④ぜんぜん大切でない

	①	②	③	④	(%)
中1	44	51	5	0	
中2	20	61	15	4	
中3	15	50	24	11	
高1	10	49	32	9	
高2	13	47	32	8	
高3	5	45	36	14	

25 筑波大学附属駒場中・高等学校

①とても大切 ②わりと大切 ③あまり大切でない ④ぜんぜん大切でない

	①	②	③	④	(%)
中1	56	43	1	0	
中2	29	52	11	8	
中3	19	48	22	11	
高1	15	45	23	17	
高2	25	47	18	10	
高3	21	48	20	11	

次のような人は、クラスの中にいますか

26 落ち込んでいるとき話を聞いてくれる人

①たくさんいる ②2, 3人いる ③1人いる ④いない

	①	②	③	④	(%)
中1	29	47	3	21	
中2	26	43	7	24	
中3	23	45	7	25	
高1	13	43	7	37	
高2	21	48	10	21	
高3	20	49	8	23	

27 一緒におしゃべりをする人

①たくさんいる ②2, 3人いる ③1人いる ④いない

	①	②	③	④	(%)
中1	82	18	0	0	
中2	88	11	1	0	
中3	80	14	1	5	
高1	70	24	2	4	
高2	75	19	2	4	
高3	82	13	2	3	

28 あなたをからかったり、いじめたり、無視する人

①たくさんいる ②2, 3人いる ③1人いる ④いない

	①	②	③	④	(%)
中1	6	14	2	78	
中2	6	15	11	68	
中3	10	17	7	66	
高1	9	10	5	76	
高2	15	12	3	70	
高3	14	9	5	72	

あなたは、次のように思うことがありますか

29 友達の話についていけない

①いつも思う ②かなり思う ③あまり思わない ④ぜんぜん思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	18	65	17	
中2	0	21	63	16	
中3	2	29	60	9	
高1	6	18	67	9	
高2	7	31	59	3	
高3	3	22	63	12	

30 仲のよい友達でも、悩みまでは話せない

①いつも思う ②かなり思う ③あまり思わない ④ぜんぜん思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	8	31	47	14	
中2	11	29	37	23	
中3	7	29	49	15	
高1	14	28	44	14	
高2	11	30	44	15	
高3	12	37	42	9	

31 クラスの中では目立たないようにしようと思う

- ①いつも思う ②かなり思う ③あまり思わない ④ぜんぜん思わない

	①	②	③	④	(%)
中1	1	10	60	29	
中2	6	21	45	28	
中3	5	20	55	20	
高1	6	23	56	15	
高2	6	23	47	24	
高3	8	22	48	22	

あなたには次のことがあてはまりますか

32 家ではがまんばかりしている

- ①とてもそう ②わりとそう ③あまりそうでない ④ぜんぜんそうでない

	①	②	③	④	(%)
中1	4	15	61	20	
中2	5	25	34	36	
中3	11	16	44	29	
高1	6	18	37	39	
高2	6	17	40	37	
高3	4	15	41	40	

33 学校ではがまんばかりしている

- ①とてもそう ②わりとそう ③あまりそうでない ④ぜんぜんそうでない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	14	63	23	
中2	2	8	50	40	
中3	3	20	54	23	
高1	4	23	55	18	
高2	4	21	53	22	
高3	5	22	49	24	

34 周囲からの自分への視線はいつも気になる

①とてもそう ②わりとそう ③あまりそうでない ④ぜんぜんそうでない

	①	②	③	④	(%)
中1	14	39	35	12	
中2	13	24	47	16	
中3	11	45	35	9	
高1	21	48	25	6	
高2	15	51	26	8	
高3	21	38	30	11	

35 友達の自分に対する評価が気になる

①とてもそう ②わりとそう ③あまりそうでない ④ぜんぜんそうでない

	①	②	③	④	(%)
中1	19	40	31	10	
中2	14	30	42	14	
中3	11	50	29	10	
高1	23	46	24	7	
高2	19	53	19	9	
高3	18	49	21	12	

36 朝からいらいらすることがある

①とてもそう ②わりとそう ③あまりそうでない ④ぜんぜんそうでない

	①	②	③	④	(%)
中1	3	20	53	24	
中2	12	23	40	25	
中3	15	16	53	16	
高1	14	22	40	24	
高2	11	31	43	15	
高3	9	30	40	21	

37 頭がボーッとすることがある

①とてもそう ②わりとそう ③あまりそうでない ④ぜんぜんそうでない

	①	②	③	④	(%)
中1	11	33	46	10	
中2	23	33	30	14	
中3	23	38	33	6	
高1	17	33	35	15	
高2	21	41	30	8	
高3	21	36	34	9	

あなたは、次のようなことをするのをどう思いますか

38 たいした訳もなく遅刻や早退をする

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	49	46	4	1	
中2	42	39	10	9	
中3	34	44	15	7	
高1	25	48	14	13	
高2	34	41	15	10	
高3	29	43	16	12	

39 嫌いな科目の授業をさぼる

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	58	33	8	1	
中2	31	39	21	9	
中3	26	37	27	10	
高1	26	30	29	15	
高2	24	45	16	15	
高3	20	41	23	16	

40 授業中おしゃべりをする

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	17	54	26	3	
中2	21	40	29	10	
中3	11	42	30	17	
高1	25	52	16	7	
高2	21	51	19	9	
高3	21	57	16	6	

41 教科書を忘れたとき、他人のロッカーから適当に出して使う

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	91	7	1	1	
中2	86	9	3	2	
中3	78	17	1	4	
高1	84	13	1	2	
高2	64	26	4	6	
高3	58	25	11	6	

42 他人の傘を無断でさして帰る

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	85	12	2	1	
中2	85	11	3	1	
中3	86	11	1	2	
高1	81	14	2	3	
高2	80	12	2	6	
高3	78	16	6	0	

43 スーパーやコンビニで安い小物を万引きする

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	92	7	1	0	
中2	80	17	2	1	
中3	89	10	1	0	
高1	88	7	2	3	
高2	81	14	3	2	
高3	86	11	2	1	

44 マージャンやカードでお金をかける

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	46	30	16	8	
中2	39	35	15	11	
中3	34	30	19	17	
高1	20	31	21	28	
高2	29	35	19	17	
高3	31	29	22	18	

45 文化祭などの打ち上げでお酒を飲む

①とても悪い ②少し悪い ③あまり悪くない ④ぜんぜん悪くない

	①	②	③	④	(%)
中1	50	37	8	5	
中2	37	22	23	18	
中3	21	37	27	15	
高1	26	22	26	26	
高2	30	33	16	21	
高3	23	34	22	21	

あなたは、次のようなことをしたことがありますか

46 他人のロッカーの中のものを使う

①何度もある ②ときどきある ③1, 2回ぐらいある ④ぜんぜんない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	0	0	100	
中2	1	1	5	93	
中3	2	2	9	87	
高1	4	2	12	82	
高2	6	14	19	61	
高3	12	11	14	63	

47 他人の下駄箱の靴を使う

①何度もある ②ときどきある ③1, 2回ぐらいある ④ぜんぜんない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	0	0	100	
中2	0	0	2	98	
中3	1	0	6	93	
高1	3	2	6	89	
高2	4	12	10	74	
高3	2	4	12	82	

48 他人の傘をだまっさして帰る

①何度もある ②ときどきある ③1, 2回ぐらいある ④ぜんぜんない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	1	3	96	
中2	2	1	3	94	
中3	2	1	11	86	
高1	6	7	17	70	
高2	7	8	21	64	
高3	7	6	17	70	

49 競馬の馬券を購入する

①何度もある ②ときどきある ③1, 2回ぐらいある ④ぜんぜんない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	2	1	97	
中2	0	0	0	100	
中3	1	0	3	96	
高1	3	3	3	91	
高2	4	5	2	89	
高3	4	3	5	88	

50 たばこを吸う

①何度もある ②ときどきある ③1, 2回ぐらいある ④ぜんぜんない

	①	②	③	④	(%)
中1	0	0	1	99	
中2	0	1	4	95	
中3	1	0	6	93	
高1	3	2	6	89	
高2	6	2	10	82	
高3	3	3	6	88	

(2) アンケート分析

まず1から4の、日本社会をどのように感じているかに関わるアンケートから眺めていこう。「日本の住み心地がよい」かについて、かなり良いとする者が半分を占め、とても良いとする者と合わせると各学年80%前後に達する。しかしながら日本人が親切かどうかになると、あまり思わないが50%を越え、まったく思わないを合わせると、60%以上が日本人は親切でないと回答している。経済的な豊かさ、治安面や国際紛争面などから日本は比較的安全な国であるために、そのような側面から見て住みやすさを覚えるものの、次の「親切な人が多い」かに関連しては、隣人との関係や社会的な人間関係において、連帯感の希薄さが浸透し、むしろ不信感さえ抱いている暮らしぶりが浮かんでくる。また「学歴がものをいう社会である」かとのアンケートに対しては、どの学年においても、とても思う、かなり思うと答えた生徒が多く、2つを合わせると、80%を越える生徒が、日本社会は学歴がものをいうと考えている。このことは4番目のアンケート内容の「将来しだいに競争がなくなっていく社会」であるかにもしっかりと反映しており、80%を越える生徒がそうあまり思わない、あるいはまったく思わないと答えており、少子化はけして社会的には競争の緩和をもたらさず、むしろ少数による激戦傾向が高まると生徒の多くは感じているようである。アンケートの1から4の日本社会との関わりの中で、日本は、経済面や安全面では住みやすいものの、そこで暮らす人々に対しては信用をしておらず、しかも学歴と競争とが価値を持つ国だとの評価を行っている点が伺える。

アンケートの5から15は、生徒と普段の生活との関係の中で質問を行っている。

「目覚めはいい方ですか」については、すっきりさわやかに起きられるは、各学年10%以下で、高くても中2の7%、中学1年生ではわずか2%という数字になっている。もっとも、入学当初のアンケートのため、中1はまだ学校に慣れていないという面も否めない。いずれにせよ、なんとなくだるくボーとしている、あるいは起きようとするが起きられない生徒が各学年で40%を越えている。

「朝ごはんを食べて登校しますか」ではほぼ90%近くの生徒が毎日食べていると回答している。ほとんど食べないと答えた生徒は中1で0%、他の学年では数%となっている。「朝学校に行きたくないと思うことがありますか」では、全然思わないは学年進行と共に減少していく。つまり中1の65%が高3では28%となり、その分、学校に行きたくないという気持ちが増大していく。高校生では、週に何度か学校に行きたくないと思う、絶えず行きたくないと思っているを合わせると、学校に行くことにネガティブな気持ちを抱く生徒が20%を越える。

8の「昼食の早弁をしていますか」については、かなりの生徒が現実にはしているというのが実態である。

9の「あなたの平日の睡眠時間について」は学年進行と共に分布の山が、睡眠時間の少ない方

に移っていくのがはっきりと伺える。つまり中1や中2では7時間から8時間を分布の頂点としているが、中3から高2にかけては6時間から7時間に頂点が、高3では5時間から6時間が頂点となり、分布の山が形成されている。高校3年生では4時間から5時間が17%、4時間未満が3%おり、5人に1人が平日の睡眠時間は5時間未満となっている。

「次のうち自分専用に持っているものはどれですか」では、ポケベルを持っている生徒は非常に少なく、PHS及び携帯電話は学年進行と共に増大する傾向があり、両方を合わせると、高3では20%近くの生徒が所持していた。

「あなたはアルバイトをしていますか」では、各学年とも基本的にはほとんどの生徒がやっておらず、やっても、週に1ないし2回がその回数のようなのであるが、例外的に若干名の生徒が週に3ないし4回あるいは5回以上を行っている。

「あなたは塾や予備校に行っていますか」では、学年進行と共に特色ある結果が現われた。つまり、全然行っていないは中1の53%から高3の10%へ減少し、塾や予備校に行っている者の内、中1から高1までは週1回ないしは2回が普通であったのに対して、高2では週2回ないし3回が普通となり、高3になると週3回ないし4回以上が当たり前となっていく。高3の場合で週3回ないし週4回以上で77%となる。

「あなたは学校の勉強は自分にとって役立つと考えますか」では、中1のすべての教科・科目が役立つと回答した69%という数字が目立っているが、この数字を除外すると、役立つ教科・科目とそうでないものがあり役立つ時は無理をして受けているというのが分布の中心となっている。本校生徒の場合、役立つから無視をしようとした生徒はほとんどあまりなく、すべての教科・科目が役立つとする者と役立つなくても無理をして受けているという生徒を合わせると基本的には80%前後に達し、大概の授業を80%の生徒が聴いており、20%前後の生徒が役立つまいと考えた場合、他のことをしたり眠ったりして聴いていないという風景が現出してくることが伺える。

「あなたが勉強しなければならない一番の理由は何ですか」では、社会に役立つためとの回答は、中1の37%から高3の18%へとほぼ学年進行と共に減少する。逆に将来の自分の利益となるためと答える生徒が中1の19%から高3の40%へとほぼ学年進行と共に増大していく。勉強がおもしろいと答える生徒は学年進行との相関関係はなく、高3の22%、中1の21%、高2の17%、中2の16%といった回答結果となっている。絶えず勉強をしなければならないのは、中1から高2にかけて学年進行と共に増える傾向がある。勉強をしなければならない理由がわからないのは、中2と中3で他の学年と比較すれば多い傾向を示している。

「あなたは部活動にどのように参加していますか」では、運動部に入り熱心に活動しているが中1の64%から高3の27%へと学年進行と共に減少していく。当然これとは裏腹に以前は参加したが現在は参加していないが学年進行に従い増大する。非常に興味深いのは、文化部に入り熱心に活動しているが、学年進行とはあまり関係ない回答状況を示していることである。なお、中高

6ヵ年間を通して部活動に参加したことがない生徒が、高2と高3で5%いた。

16から18は身近な関係の中で生徒が態度の表明ができるかできないかを尋ねている。

「友達と意見が違うときに、自分の意見を主張する」では、できる、たぶんできるを合わせると各学年ほぼ80%を越えるが、詳細に眺めると学年進行と共にその数字は次第に減少し、逆に、たぶんできない及びまったくできないが次第に増えていく傾向が見られる。「友達がいじめられているとき、助ける」では、できる、たぶんできるがほとどの学年でも50%代を示しているが、高2だけ50%を下回っている。逆にたぶんできない、まったくできないは40%代を占めており、傍観者として振る舞う態度が非常に多い傾向が見られる。

「クラスの責任ある仕事を進んで引き受ける」では、できる、たぶんできるは合わせて中1の53%を最高に、中3で50%、他の学年では30%から40%代の水準に留まる。高1が最も低く34%という数字を示している。逆に、たぶんできない、まったくできないは、中1を除いて、50%以上の数字を示している。

16から18を通して、身近な関係の中で、生徒は、人間関係に深入りせず、他者感覚を持ちながら緩やかな人間関係を維持している傾向が伺える。

19から21は身近な関係で生じた出来事をどれだけうれしく感じられるかというものである。

「定期試験でいい成績をとったとき」では、とてもうれしい、わりとうれしいがほとどの学年でも90%を越える。もっとも、あまりうれしくない、うれしくないは中1から高3にかけて次第に増加する傾向を示している。

「友達が特別な賞をとったとき」では、とてもうれしい、わりとうれしいを合わせると、中3の52%を谷の底にして、中1の78%と高3の74%を頂点とするU字型を描く。あまりうれしくない、うれしくないは当然のごとく、中3を頂点とする逆U字を描くことになる。特に中3では、あまりうれしくないとうれしくないを合わせると、48%と高い数字を示すが、これは学年進行の中で起きる現象なのかどうか、大変興味ある傾向である。

「クラスが合唱祭などで優勝したとき」では、とてもうれしいとわりとうれしいを合わせると、どの学年も80%代から90%代を示している。もっとも中3から高2にかけて、あまりうれしくないとうれしくないが数字の上では他の学年と比較して高くなり、本校における、中3から高2にかけての音楽祭指導の難しさが伺える。

19から21にかけて、同じような数字を中1と高3が示しても、しかしながら中高6ヵ年における経過を通した、質的な違いがあることを感じる。

22から25にかけては、身近なものをどれだけ大切に感じるかという設問になっている。「自分」を大切に回答する割合は、中1の97%から高3の87%にかけて次第に減少していく傾向が見られる。逆に、あまり大切にないと全然大切にないを合わせた数字は、中1から高3にかけて増

えていく。中3を境にその数字は10%代となる。

「友達」を大切に回答する割合はどの学年でも90%を超える。もっとも中3及び高1であまり大切にない、全然大切でないが他の学年よりも高い傾向を示す。

「クラス」をととても大切に回答する割合は学年進行と共に減少する。中3から10%代に低下し、高3では5%という低い数字となる。その反対にあまり大切にないが学年進行とともに増加する。また全然大切でないとの数字も、中3以降、10%前後の数字となる。もっとも、わりと大切にす回答が全体の中で一番高く、多くの学年で50%前後の数字を示している。

「筑波大学附属駒場中・高等学校」では、前問の「クラス」と同じような回答傾向を見せる。とても大切に学年進行と共に減少し、その代わりに、あまり大切にないが学年に従い増大する。全然大切でないのは中3以降10%代となり、特に、高1は17%という数字を示している。

26から37までは、生徒の友人関係や精神衛生に関係する事柄を尋ねている。

「落ち込んでいるとき話を聞いてくれる人」がクラスの中にいるかどうかについて、どの学年も2、3人いると答えた生徒が40%代の数字の割合となり、たくさんいると合わせると、高1を除いて60%を超える。いないと答えた生徒は、高1の37%を除いて、他の学年では20%代を示している。高1の場合は3人に1人以上が、他の学年では4人に1人ないし、5人に1人が悩みを打ち明ける友人を持っていないという現実がある。

「一緒におしゃべりをする人」がクラスの中にいるかどうかについて、たくさんいる、2、3人いるを合わせると、どの学年でも90%を超える。中3から高3にかけて、おしゃべりをする人がいないという生徒が、各学年で4ないし5%ほどいるのは気にかかることである。

「あなたをからかったり、いじめたり、無視する人」がクラスの中にいるかについて、いないとの回答は、一番数字の高い中1の78%から、一番数字の低い中3の66%までの数字となっている。つまり、どの学年においても、4人に1人ないしは3人に1人が、たくさん生徒からあるいは数名の生徒から、からかわれたり、いじめられたり、無視されたりしている様子が伺える。

「友達の話についていけない」と思うことがあるかについて、いつも思う、かなり思うを合わせると、高2で38%と高く、中1が18%と一番低い数字となっている。全然思わないという生徒は低い順に、高2で3%、中3と高1で9%、高3で12%、中2で16%、中1で17%となっているが、それ以外の生徒は程度の違いがあるものの、なんらかの形でついていけないことを経験しているとも言える。

「仲のよい友達でも、悩みまでは話せない」と思うことがあるかについて、いつも思うとかなり思うを合わせると、高3の49%を最高に他の学年でも40%前後の数字となる。本校生徒の5人に2人は、仲のよい友達でも悩みまでは話せないと考えているようである。「クラスの中では目立たないようにしようと思う」かについて、いつも思うとかなり思うを合わせた数字は、学年進行とともに、中1の11%から高3の30%へと増加していく。中2と中3で4人に1人が、高校

生になると3人に1人が目立たないようにしようと考えていることが伺える。

「家ではがまんばかりしている」かについて、あまりそうでない、全然そうでないを合わせると、中1の81%、中2の70%、中3の73%、高1の76%、高2の77%、高3の81%となり、学年進行との相関性は感じられない。とてもそうは中3の11%が高く、わりとそうは中2の25%が一番高い結果となっている。

「学校ではがまんしている」かについて、とてもそう、わりとそうを合わせて中2の10%が他の学年と比較してもとても低い数字になっているのを除くと、中3以降の学年では20%以上の数字となり、約4人に1人が学校生活をがまんして送っていることになる。ぜんぜんそうではない生徒は、中2の40%が最高で、他の学年は20%前後の数字となっている。

「周囲からの自分への視線はいつも気になる」かについて、とてもそう、わりとそうを合わせると、中2の37%が最低で、高1の69%が最高となる。最低と最高の差が大きく隔たるように見えるが、中2以外は基本的には50%を越え、特に高校生になると周囲からの視線が気にかかる傾向が伺える。

「友達の自分に対する評価が気になる」かについて、とてもそう、わりとそうを合わせると中2を除いて、ほぼ60%を各学年で越える。高校生では10人の内7人までが友人の自分に対する評価を気にしていることが伺える。全然そうでないとする生徒は各学年10%前後と約10人に1人となっている。

「朝からいらいらすることがある」かについて、とてもそうとわりとそうを合わせると、高1の36%、高2の42%が高く、中1から学年と共に増加している傾向が伺われる。あまりそうでないは、中1と中3が53%、他の学年は40%程度となっており、全然そうでないは、中3と高2が約6人に1人ぐらい、他の学年は4人に1人ぐらいとなっている。

「頭がボーッとすることがある」かについて、とてもそうとわりとそうを合わせると、中2以降の学年で50%を越える。もっとも中1でも44%の生徒がそのような状態になると答えており、頭がボーとした状態なる生徒は多いといえる。全然そうでないという生徒は中2と高1で約6人に1人、他の学年では10人に1人ぐらいとなっている。

38から45までは生徒の規範意識について尋ねている。

「たいした訳もなく遅刻や早退をする」ことについて、中1では49%がとても悪いと答えているのに対して、高1、高3では20%代の数字に低下していく。あまり悪くない、全然悪くないを合わせた数字は、中2以降ではほぼ20%を越える。しかも、全然わるくないとする生徒が高校生で10%を越える。つまり、高校生になると、10人に1人が遅刻や早退に対して罪悪感を持っていないことになる。

「嫌いな科目の授業をさぼる」ことでは、とても悪いは、明らかに学年進行とともに、中1の58%から高3の20%へと低下していく。あまり悪くないと全然悪くないを合わせた数字が学年進

行と共に増加する傾向を見せる。中2で30%の生徒が嫌いな科目をさぼることを、悪くはないと考えている。高校生になると、15%ぐらいの生徒が全然悪くないと考える。

「授業中おしゃべりをする」ことでは、分布の上では少し悪いが一番大きな割合を示している。あまり悪くない、全然悪くないとする生徒は、中1が29%、中2が39%、中3が47%と高く、むしろ高校生の方が低くなっている。

「教科書を忘れたとき、他人のロッカーから適当に出して使う」では、とても悪いは明らかに学年進行に従い低下していく。つまり、中1の91%が高3では58%となる。その分、すこし悪いが学年進行とともに増加するが、あまり悪くない、全然悪くないを合わせた数字は高2で10%、高3で17%と高く、学年進行に従い、この手の規範意識がしだいに崩れていく様子が伺える。

「他人の傘を無断でさして帰る」では、とても悪いは中1の85%から高3の78%へと、学年進行に従い少しずつ低下していく。低下していく分は、少し悪い、あまり悪くない、全然悪くないへと、数字の分で移動し、この面でも規範意識のずれが生じているのが伺える。

「スーパーやコンビニで安い小物を万引きする」では、とても悪いは、中1から高3まで、どの学年でも80%を越えるが、その中で、中2の80%、高2の81%が他の学年と比較して低い数字となっている。数字の低かった分は、少し悪いの高さになって現われている。あまり悪くない、全然悪くないを合わせた数字は高1と高2で5%と、他の学年よりも少し高い結果となっている。

「マージャンやカードでお金をかける」では、とても悪いは中1の46%から高1の20%にかけて低下していく。高2で29%、高3で31%と増加するが基本的にはとても悪いとする規範意識は低下する傾向があると言える。あまり悪くないと全然悪くないを合わせた数字は、中1で24%、中2で26%、中3で36%、高1で49%、高2で38%、高3で40%

という数字を示しており、本校生のお金をかけることへの罪悪感強いものではないことを伺わす。

「文化祭などの打ち上げでお酒を飲む」では、とても悪いという意識は中1から中2の段階で急速に低下していく。これは、あまり悪くない、全然悪くないを合わせた数字にも現われてくる。つまり、あまり悪くない、全然悪くないを合わせた数字は、中1の13%から、中2の41%、中3の42%、高1の52%、高2の37%、高3の43%という数字へ変化していく。「マージャンやカードでお金をかける」ところでも高1の規範意識の低さが気になるころであったが、この設問でも、高1が一番高い数字を示しているのは、気になる事柄である。

38から45にかけて、規範意識に関わる事柄を尋ねてきたが、もっとも強く規範意識が現われたのは、「スーパーやコンビニで安い小物を万引きする」であり、次が「他人の傘を無断でさして帰る」、その次が「教科書を忘れたとき、他人のロッカーから適当に出して使う」であった。「マージャンやカードでお金をかける」や「文化祭などの打ち上げでお酒を飲む」が「嫌いな科目の授業をさぼる」と、数字の上では同じ程度の規範意識の現れとなっており、「たいした訳もなく遅刻や早退をする」ことの方が生徒にとっては強く禁止が働くという結果をアンケートは明かし

てくれた。

46から50までのアンケートは、いわゆる逸脱行為に関わる事柄を実際にしたことがあるかどうかについて尋ねている。

「他人のロッカーの中のものを使う」では、全然ないは、中1の100%から高3の63%へと学年進行に従い低下している。もっとも一番低い数字は高2の61%であるが、数字の上で高3の63%と大きな違いがあるわけではない。何度もあるは、あきらかに学年進行に従い割合が高くなり、高3が12%ととなっている。他人のロッカーの中のものを使う割合が高校2年生になると増加してくるのは、選択科目が増えることによる、他人の教科書の使用もあるのだろうが、寸借を増やす機会を与えているとも言える。

「他人の下駄箱の靴を使う」では、やはり学年進行に従い、そのような行為が起きることを示している。全然ないは、中1の100%から高2の74%へと低下する。数字の上では高2が一番低くなっているが、高3も82%という数字の割合となっている。中2では2%が、中3では7%が、高1では11%が、高2では26%が、高3では18%がなんらかのかたちで他人の靴を使っていることになる。

「他人の傘をだまっさして帰る」でも、学年進行と共に、他人の傘をだまっさして帰る割合が増加していく。中1でも4%あり、「他人のロッカーの中のものを使う」、「他人の下駄箱の靴を使う」などと、全然ない割合で比較すれば、「他人の傘をだまっさして帰る」が一番低い数字となっており、現実には傘の紛失が本校では一番多いことが推測される。

「競馬の馬券を購入する」では、中2の全然ないが100%なのを除き、どの学年でも馬券の購入をする生徒がいるが、やはり、高校生に馬券の購入回数が多い生徒が存在する。何度もある、ときどきあるを合わせると、高1が5%、高2が8%、高3が6%という割合になっている。

「たばこを吸う」では、1、2回ぐらいあるが中1に1%ある。中2でも、ときどきある、ときどきあるを合わせると5%ある。中3では何度もあるが1%あり、1、2回ぐらいあるを合わせると7%となる。高1では、何度もある、ときどきある、1、2回ぐらいあるを合わせると11%となる。高2では18%、高3では12%となる。この設問に関しても、学年進行と共に増加していく傾向が見られる。

以上が本校生徒の「生活意識調査」の分析結果である。

(3) アンケート分析から眺めた、中高6カ年における生徒意識の変遷とその問題点

むかつく・きれる・学級崩壊・不登校・学校スリム化・ダブルスクール等、生徒や学校に関して実に多様な用語が生み出されてきている。それはそのまま学校を取り巻く環境の難しさを物語っている。学校が、教師が権威ある存在として、何か語ればそれですんでいた時代はもはや、

残念ながら過去の語りぐさでしかなくなっている。駒場においても最近の生活指導上の問題行為の多さは、今現在進行している学校をめぐる問題と共通する性質のものと考えられる。校門をくぐる時、「ここに泉あり」と生徒が感じる学校文化は次第に失われ、街の風景そのものが、本校においても浸透しいと感じるのは私個人だけはないだろう。アンケート分析から眺めた、中高6カ年における生徒意識の変遷とその問題点について、ここでは、①「入りの問題」、②学校生活の中で、③高校における「入りの問題」などの観点から、考察する。

① 入りの問題

「入りの問題」とは、本校中・高6カ年教育における出発点として、従来からも指摘されてきたものであるが、中学入学時における学校適応をいかにして速やかに促していくかという課題である。それぞれの環境で優等生であった子どもが入学し、新しい人間関係を構築していく訳であるが、当然のことながら、様々なストレスが発生し、その過程を通して、本校における自分の見だしをうまく行わせていくという、最初のそして重要なハードルである。その学年の雰囲気形成していく上で、入りの際生じる幾つかの問題をうまく越え、学年経営を速やかに行うことが必要となる。しかしながら、それぞれの環境で優等生であった子供が入学し、それぞれの位置を見だしていく際生じる、いわゆる従来から考えられてきた「入りの問題」とだけでは説明のつかぬ事例が、最近多く見いだされてきているのではないだろうか。

子どもたちは入学以前の段階で厳しい受験競争を体験してこの学校に入ってくる。当然彼らの思考構造には、偏差値重視があり、偏差値や塾を中心とした価値形成が行われている。つまり、ここまでは以前から同じ傾向はあった。しかしもう一つの思考の輪が、子ども等の頭の中を縛ってきてはいないだろうか。個人と消費を中心とした思考の輪とも言うべきものである。当然子どもの意識は、大人のあるいは社会の意識傾向がそのまま再生産し、時にはもっと先にまで越えていこうとする。かつてはあった、「周りを思いやり」とか、「学校社会は子どもの教育に絶対的なものである」とか、「地域社会への参加と隣人関係の形成」とか、つまりかつてはあった教師尊重や共同体的な意識の崩落の一方で、個人と個人との関係が利害や関心で形成され、消費構造をそのまま取り入れたものの見方（快適・不快を軸にして）を通して、しかも強い権利意識の中で、周りのものを捕らえていく意識形成が進んでいる現実を、もはや否むことはできなくなっている。当然このような意識は家庭における家族のあり方や考え方にも影響し、生徒の意識として再生産されていく。教師も学校も、当然このような意識にさらされているわけであり、教育もある種のサービスの消費として、気に入らない場合は、当たり前のように学校・教師批判と結びついていく。サービスの消費はいつも自己本位的であり、心地よさとか不快とかといった形になってあらわれてくる。偏差値を中心に人間関係を捉えていく思考構造に、自己本位と消費を核とした思考の輪が重なって、味合う味覚が「歌え水のように、歌え果実のように」のようなものならば良いのだが、そうでない場合には、非常に歪んだものとなって現われる可能性がある。しか

も、入学に際しては、母子一体で勝ちえた現実があり、「入りの問題」での躓きで生じる問題は、優等生が一人で適応できないことに悩むという風景よりは、生徒を巻き込み家庭が前面にでてくるかたちで現出してくる可能性が高くなっていると考えられる。

しかも、「入りの問題」は、それぞれの環境で優等生であった子供の、本校への適応・不適応という従来型の問題だけではなく、自己本位的傾向を強く持った子供が現に出現し、周りとの共存すら困難などと言える深刻な状況が、しだいに姿を見せつつあるという新たな問題の発生である。共同体的な規範意識の欠落と利害中心の考え方は、自分を中心としてしか、ものを見ることの出来ない新しい人間像を出現させてきた。「市場経済」の論理は地域や学校、家庭さえも変質化させていくが、それは育ちの問題も加わり、従来の思考では理解するのが難しい生徒の出現へとつながる。従来の「学校文化」・「学校社会」の論理では、生徒指導に立ち向かうのが困難な場面に遭遇せざるをえなくなっている現実を認めざるを得ない。生徒指導の中で問題の核心に入ろうとすると心の扉を閉め、硬質な表情をつくる。そればかりではなく、学校を支えてきた常識的な論理さえも通用しなくなっている。そもそも罪とは何なのか、暴力とは何なのか、周りとうまくやっていくことが何故大事なのか、そんな基本的な事柄さえ本当の意味で解らない子供がいる。カウンセリング技術を持って対応するしかないのかという、思いにかられる生徒の存在がある。このような極端な生徒はまだ少数かもしれないが、規範意識が大人も子供も欠落してきている現状にあって、評価として人の目に晒される場面においては、しっかりやっているが（ゴミ処理やデポジット）、他人の目の及ばないところでは著しく倫理意識は後退し、また陰湿な行動へとかわられるもう一つの生徒像があることも事実である。

「入りの問題」は、最後にもう一つの形をとって現われてくる。燃えつき症候と呼ばれる生徒であり、不登校へといたる生徒である。勿論別の理由も存在しており、「入りの問題」としてすべてを捉えることは出来ないが、「入りの問題」も一つの原因となると考えられる。不登校や燃えつき症候の場合、6ヵ年間その状態で過ごすことになり、生徒にとっても教師にとっても、卒業までの難しい道程となる。

② 学校生活の中で

中・高6ヵ年の間で、生徒はそれぞれに、さまざまに、変容をとげていくわけだが、その中で、クラブや学校行事を通して、学年を越えた強い影響を生徒個々が受けていくことは否めない。それは良い面もあれば当然悪しき伝統もうけついでいくことになる。生活指導上留意することがらとして、やはり、学校生活の中で生じる退廃感をいかに断ち切っていくのかは重要な課題となる。もっともそれは成長のためには折り込まなければならないと考え、議論は分かれてくるのだが。

クラブ活動が、学校行事が、今現在においても、生徒の自己実現の上で大きな役割を担っていることは十分に認知してよいことだと思う。逆に言えば、その学校行事やクラブ活動を通して、

クラスあるいは個人がうまく参加していく環境をつくるのが、生徒指導を円滑にすすめていくために必要となっているのは言うまでもない。

しかしながら、そのようなクラブ活動や学校行事においても、新しい傾向は現出しているのではないだろうか。つまり、自己本位的な人間関係は、逆には妙に互いの関係を強く意識しあい、間を取り合う人間関係の形成になっているのではないだろうか。自分の中に深く及ばない限りの人間関係は、逆に見れば心を開かない人間関係であり、他者感覚を常に抱かせる人間関係形成となる。

そのような人間関係が進行する中で、自分の関心、自分の利害の及ばない場合には、積極的なクラブ参加や委員会活動は望めず、しかも、クラブやクラスのためといった論理は余りうまく機能せず、ある生徒達にはかえって離脱を誘う機会さえ与えかねないという状況を作りかねない現実がある。ましてや後輩のためにクラブに意欲的に参加していくといったことは難しくなっており、学校クラブをいかにして維持していくのかは、真剣に取り組めば取り組むほど、ある種のデレンマに陥る可能性がある。当然一方では、すべてを学校で取り込むことは諦めて、委ねられるものは外部へ委ねたほうがという議論へと発展してくる訳で、これをめぐっては議論は分かれる。

ところで、学校行事やクラブへの参加、あるいは委員会活動において、ダブル・スクールは大きな影を落としている現実も無視できない。委員会活動の場面でも実に醒めた役割分担が行われている。文化祭などの取り組みにおいてもまた、塾を予定にした取り組みは当然として行われている。私個人の関係するクラブにおいても、全国大会や合宿よりは短期留学を、あるいは資格認定試験を受けるということが度々生じてきている。しかもクラブの部長クラスで行われる訳であり、個々の利害を全体の中でうまく調整することは、教師にとっても生徒にとっても現実に難しくなっている。学校を中心とした「大会参加形態」や「学校文化形成形態」は次第に空洞化していくのではないのか。

校外指導に関わって気になる事柄をこの項目の最後に取り上げたい。それは、校外指導実施直前になって参加を取り消す生徒に、危機的な症状が時に現われているのではないかということである。本来ならばもっとも楽しい行事となるはずの校外指導に参加できないというのは、学校にあるいは仲間に協調できなくなってきたという可能性の現われとして捉えることが出来る。本人も協調のために精一杯努力してきた結果、現実には精神的にも身体的にも疲労し、参加出来なくなっているとすれば、十分に配慮し対応することが必要となる。

③ 高校における「入りの問題」

高校における「入りの問題」について述べたい。従来から新に入学する高校入学者と内部連絡進学者の融合をうまく促進することは大きな課題となっていたが、ここで述べる高校における「入りの問題」とは、大学入試は高校入学とともに始まっているという現実を背景にした、「入りの問題」である。大学入試は高校入学とともに始まるとすると、3年間に渡る長い入試という

ストレスにさらされる訳である。これは3年間、大学入試の種々な準備をしなければならないということではあるが、別な言い方をすれば、目的通りの大学を目指せない生徒にとって、この3年間、新たな意味を己れに課さなければならないということである。つまり、高校における「入りの問題」というのは、大学入試を前提として生じてくる、希望からの離脱の問題として捉えることができる。本校生徒の多くが東大志向の線上で生きてきたことは否めない、多くの生徒が成績的には半分よりは上位にしようと考えている訳であり、成績下位に位置した場合、当然学校生活との間に適度な距離が置かれ始めていく可能性が起きる。教師はそれぞれに希望を持たせようと努力し、学校への帰属を高めようとするのだが、現実には学校という枠組みからのある種の離脱が起きてくる。学校の枠組みからの離脱をしなくても、この3年間は絶えず入試に直面したストレスにさらされる訳であり、進路との関係で生徒はさまざまな悩み方をする。しかも「中学における入りの問題を」引きずっている場合、いかにして希望の再構築を行っていくのか、教師にとってより一層難しい課題となる。生徒は、希望を見いだそうとする時間の中で、学校との帰属意識を消失しながら、「浮遊感覚」・「他者感覚」を以て、学校生活を過ごす可能性が高くなる。

しかもその歪みが現われるとすると、高校2年時に現われてくるのではという問題である。勿論心や肉体の成長の問題もあり、俄にこれは定説とする根拠はあまりないのだが、単位取得に関係しても、また学校行事への取り組みにしても、高校2年時は著しく難しい時期となっているのではないかと想定する。受験の上からも限界感が始まり、塾を中心とした生活スタイルの中で、この時期が、学校という枠組みへの違和感に捉われやすい時期ではないかと想定される。

④ 最後に

ここまで、アンケート分析に従いながら語らせてもらったが、最後に、生活指導を円滑に進めていくためにはやはり根本は、生徒と教師がいかに人間関係を作り出していかにかかっていると考え。生徒と教師の意識関係はそのまま、学校の様々な面に反映してくる訳であり、希薄な人間関係からは良い生徒指導はうまれてこないことは歴然としている。

学校で今現われていることは、その学校や教師あるいは家庭の問題もあろうが、「今の社会の持つ問題の縮図」として考えた方が明解ではと考える。

ところで、我々教師はどうしても過去にうまくいった指導方法に依存したがるが、「今の社会」が恐ろしい速さで変化しているのが実情である。つまり、現実の急速な変化の前に、過去の方法がいつもうまくいくとは限らないと考えた方が良いのではないだろうか。生徒指導上のマニュアルが確立されていれば良いが、そのようなものが残念ながらないというのが現実である。やはり、根本は生徒と教師がいかに良い人間関係を作っていくかにあると思う。かなり否定的なことを述べてきたが、我々の学校は、まだ十分に生徒との間に、良好な関係を形成できる余地を残している。さまざまな困難はあるかもしれないが、教育文化の土壌をこれからも絶えず形成していかなければならないと考える。

今年度及び来年度の生徒部では、「個人化・情報化・多様化・多元化・国際化」などで象徴される、言ってみれば、或る共通の価値観ではくくることのできない現代の生徒像を考えていく上から、「個々の生徒に即応した生活指導の可能性」をテーマに、研究を行っている。この調査はそのための本校生徒の実像を少しでも知ることができればとの思いから行ったアンケートであり、分析結果である。あくまでもこれは研究のための基礎データではあるが、この分析結果を通して、生徒理解とそれに従うより有効性の高い生徒指導ができればと考えている。